

## 医療面接の基礎

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

医療の担い手の一員として、患者、同僚、他職種専門職や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のこころや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療面接に必要な態度と基本的技法を修得するために、コミュニケーションの基礎、行動科学理論を用いたヘルスコミュニケーション、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、基本的な理論を学んだ後、学生同士によるロールプレイを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身につける。

### ・教育成果（アウトカム）

1. コミュニケーションと医療面接の基礎を学修することで、対人理解・対人援助に関する基本的な知識と態度を習得し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
2. 他者との信頼関係や他者配慮的態度について学修することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することが出来る。
3. ストレスマネジメント概念を理解することで、自身のメンタルヘルスの保持増進のため必要な行動をとることが出来る。

(ディプロマ・ポリシー：1,4,5)

### ・到達目標（SBO）

1. 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。
2. カウンセラーに必要な態度について説明できる。
3. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。
4. 行動科学理論をヘルスコミュニケーションへ応用する方法について説明できる。
5. ストレスマネジメントとセルフケアの重要性について理解し、説明できる。

### ・講義日程

(矢) 東 102 1-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/4	火	2	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	コミュニケーションの基礎 1. コミュニケーションの種類を列挙できる。 2. メッセージとメタメッセージについて説明できる。

					<p>3. コンテントとコンテクストについて説明できる。</p> <p>4. ミスコミュニケーションについて説明できる。</p> <p>5. コミュニケーションの機能と役割について説明できる。</p>
4/12	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>カウンセリングの基礎</p> <p>1. 広義／狭義のカウンセリングについて説明できる。</p> <p>2. カウンセリングにおいては、なぜ「クライアント」と称するのかについて、説明できる。</p> <p>3. カウンセリングが成立する条件について説明できる。</p> <p>4. カウンセリングにおける倫理について説明できる</p> <p>5. カウンセラーの基本的態度とラポールについて、説明できる。</p>
4/19	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授 藤澤 美穂 助教	<p>&lt;演習&gt;</p> <p>受容・共感</p> <p>1. 傾聴する態度がなぜ必要かを述べる事ができる。</p> <p>2. 自分の話し方と聞き方のくせについて検討できる。</p> <p>3. ロールプレイにおいて対話している相手の感情の動きを推測できる。</p> <p>4. 推測した感情を自然な言葉で相手に返すことができる。</p>
4/26	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	<p>ヘルスコミュニケーションの理論を理解する</p> <p>1. カウンセリングに適したポジショニングを説明できる。</p> <p>2. ヘルスコミュニケーションの定義を説明できる。</p> <p>3. ヘルスコミュニケーションの方法について説明できる。</p>
5/9	火	3	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授 藤澤 美穂 助教	<p>&lt;演習&gt;</p> <p>ヘルスコミュニケーションへの行動科学理論の応用</p> <p>1. 事例を行動科学理論にあてはめて検討し、介入すべき変数を抽出できる。</p> <p>2. 抽出した変数について、介入計画を立てることができる。</p> <p>3. 介入計画に基づいてヘルスコミュニケーションのロールプレイができる。</p>

5/17	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>個人と環境の相互作用を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物-心理-社会モデルでのクライアントの理解について、説明できる。</li> <li>2. クライアントの主訴に関連する情報として、何を聞く必要があるか、説明できる。</li> <li>3. ジェノグラムを記載できる。</li> <li>4. 関与しながらの観察について、その重要性和必要性を説明できる。</li> </ol>
5/24	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>&lt;演習&gt; クライアントからの質問への応用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提示されたケースに基づき、アセスメントのポイントを挙げるができる。</li> <li>2. クライアントを詳しく理解するために必要な情報を挙げるができる。またその情報を引き出すための質問を挙げるができる。</li> <li>3. クライアントからの質問に対し、その意図や背景を考慮した応答をすることができる。</li> <li>4. 明確化の技法を用いた応答ができる。</li> </ol>
5/29	月	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害等のトラウマティックな出来事後のストレス反応について、説明できる。</li> <li>2. 心理教育の効果と重要性について、説明できる。</li> <li>3. 惨事ストレスを理解し、支援者のストレスケアのポイントを挙げるができる。</li> <li>4. ストレスマネジメントの重要性を説明できる。</li> <li>5. 心理的ストレスプロセスモデルを説明できる。</li> </ol>
6/7	水	2	人間科学科心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	<p>態度分析</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解釈モデルについて説明できる。</li> <li>2. LEARN Model について説明できる。</li> <li>3. Porter の態度類型について説明できる。</li> <li>4. 医療面接における態度分析のポイントについて説明できる。</li> </ol> <p>医療面接のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接の役割について説明できる。</li> <li>2. 医療面接のステップを説明できる。</li> </ol>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方	斎藤 清二	医学書院	2013

・成績評価方法

定期試験の成績を 70%、演習への取り組みと提出物を 30%として評価する。

・特記事項・その他

本教科では、一般的な講義に加えて演習を行う。講義内で実施する演習課題は、内容を評価して返却し、次回の講義内での解説する。  
シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学習（予習・復習）をおこなうこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education)	1	講義資料の作成

# 基礎統計学

責任者・コーディネーター	情報科学科数学分野 長谷川 大 助教		
担当講座・学科(分野)	情報科学科数学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 21 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

## ・学習方針（講義概要等）

生命科学の領域には、現象の因果関係が錯綜し、決定論的方法ではなかなか解決できない問題がとりわけ多い。統計学は複雑で曖昧な生命現象を解明するために有効な科学的方法論として医療系諸分野の実務・研究に広く用いられている。近年、「科学的根拠に基づく医学・医療（evidence-based medicine）」の大切さが広く認識されるにつれ、その数理的背景を支える統計学の重要性が以前にも増して強く認識されるようになった。統計学は確率論の上に成り立つ分野であるから、100% 間違いない論理を積み重ねてゴールを目指すのではなく、結論が間違っているかも知れない可能性を数値的に評価し、そのことを織り込んだうえでゴールを目指す。「直接法」で攻めるには手に負えなさ過ぎる複雑な生命現象の現実的解明手段として統計学が大いに利用される理由はこの点にある。幸か不幸か、今は統計学の数学的背景知識が殆ど無くとも、コンピュータの力を借りれば高度な統計解析技法が誰でも簡単に利用できる時代になったが、「なぜ？」という疑問に自ら答える力がなければ「便利」は「危険」と同義語である。本科目では、統計学を「正しく安全に」利用するために必要な基礎知識と統計学的思考法を学ぶ。

## ・教育成果（アウトカム）

資料の整理および確率論の基礎知識を修得することによって、記述統計学、推測統計学の基本的な考え方を十分に会得することができる。いくつかの代表的統計技法を用いた具体例を通して基礎理解することによって、薬学領域で応用するための基本的知識を修得し、技能を身につけることができる。  
(ディプロマ・ポリシー：7)

## ・到達目標（SBO）

1. 順列や組合せに関する基本的な計算ができる。
2. 基礎的な確率の問題を解くことができる。
3. 確率変数、確率分布が理解できる。
4. 期待値、分散、標準偏差の定義および意義を説明できる。
5. 代表的な統計分布について説明できる。
6. 推定・検定の基本的考え方を確率論的立場で説明できる。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
9/6	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	資料の整理 1. 度数分布表とヒストグラムを作ることができる。 2. 代表値、散布度を理解し計算できる。
9/13	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	確率と分布(1) 1. 順列や組み合わせに関する基本的な計算ができる。 2. 基本的な確率の問題を解くことができる。 3. 離散的・連続的な確率変数とその確率分布を説明できる。
9/20	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	確率と分布(2) 1. 期待値、分散を説明できる。 2. 二項分布、ポアソン分布を概説できる。
9/27	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	確率と分布(3) 1. 正規分布、標準正規分布を概説できる。 2. 正規分布に従う確率変数の確率を計算できる。
10/4	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	確率と分布(4) 1. 正規分布による二項分布の近似ができる。 2. カイ 2 乗分布、t 分布、F 分布を概説できる。 3. 主な分布の数値表を適切に利用できる。
10/11	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	標本 1. 母集団と標本、母数と統計量の違いを説明できる。 2. 標本調査について概説できる。 3. 中心極限定理を概説できる。 4. 正規母集団からの標本平均の分布を計算できる。
10/18	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	推定(1) 1. 点推定と区間推定を説明できる。 2. 平均値の信頼区間を計算できる。
10/25	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	推定(2) 1. 二項母集団を概説できる。 2. 比率の信頼区間を計算できる。 3. 分散の信頼区間を計算できる。

11/1	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	検定(1) 1. 統計学的仮説検定法を概説できる。 2. 検定の基本的な手順を説明できる。 3. 第一種、第二種の過誤および危険率を説明できる。 4. 母平均を検定できる。
11/8	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	検定(2) 1. 母比率を検定できる。 2. 母比率の差を検定できる。
11/15	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	検定(3) 1. 適合性を検定できる。 2. 独立性を検定できる。
11/29	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	検定(4) 1. 等分散を検定できる。 2. 平均の差の検定ができる。
12/6	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	相関 1. 相関係数を理解し計算できる。 2. 相関係数の優位性を検定できる。
12/13	水	2	情報科学科数学分野	長谷川 大 助教	回帰係数 1. 回帰直線を理解し計算できる。 2. 回帰係数の優位性を検定できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	生物統計学 標準教科書	寺尾 哲、森川 敏彦	ムイスリ出版	2016
参	Excelによるメディカル／コメディカル 統計入門	勝野 恵子、井川 俊彦	共立出版	2003
参	医学への統計学 新版	丹後 俊郎	朝倉書店	1993

・成績評価方法

定期試験結果 70%と演習課題 30%で評価する。

・特記事項・その他

各自、所有の関数電卓を持参のこと。必要に応じてノート PC 持参のこと。  
 毎回演習課題の提出が必要であるが、それは添削して返却し、翌回の講義で解説を行う。  
 返却された演習課題で間違った問題を配布された解答解説や該当回の授業プリントを用いて再度解くこと。次回の講義内容について、指定された教科書の該当部分を通覧すること。これらの事前学修に

は最低 30 分を要する。

【参照】薬学教育モデル・コアカリキュラムー平成 25 年度改訂版ー薬学準備教育ガイドライン（例示）

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート PC(MS Windows/Apple Mac)	1	資料作成, 講義プレゼン用
講義	タブレット(Apple iPad/Android)	1	講義プレゼン用
講義	関数電卓	1	資料作成, 講義プレゼン用
講義	教室付属 AV システム一式	1	資料提示, 講義プレゼン用